

PRAEVIDENTIA DAILY (2月25日)

昨日までの世界：豪ドル、NZドルがようやくウクライナ情勢好転にキャッチアップ

昨日は、豪ドル、NZドルが大きく上下しており、アジア時間は中国株価の下落などを嫌気して下落していたが、その後欧米時間には持ち直し、NY時間に入ると米株価の大幅上昇につれて上昇が加速、豪ドルの対米ドル相場は一時0.9049ドルへ、NZドルは対米ドルで一時0.8342ドルと、共に先週19日の高値水準へ回復した。先週金曜日にウクライナ情勢好転の恩恵を受けていなかったが、米株価上昇を確認して一営業日遅れで反応したのかもしれない。この間、ウクライナ情勢の好転を好感してか、欧州時間から南アランドなど一部の新興国通貨も続伸したが、トルコリラは0.9%程度下落するなど、区々の動きとなっている。

ドル/円は、東京時間には日経平均や中国株価の下落を受けて102円丁度方向へ下落したが、その後欧米時間に向けては、米長期債利回りが持ち直したことや米株高もあって、102円台半ばへ反発し、引き続き方向感がはっきりしないレンジ相場が続いている。

ユーロは、独Ifo景況感指数が111.3と前月および市場予想を若干上回ったほか、ユーロ圏1月分HICPが前年比+0.7%から+0.8%へ上方修正され、来週の3月理事会でのECBの追加金融緩和の喫緊性が後退したとの見方から上昇、対ドルで一時1.3771ドルへ上昇していた。もっとも、その後は一時1.37ドル丁度近辺へ反落するなど方向感は定まらず、結果として先週末の水準近辺で引けている。ユーロ反落には、ハト派的発言が多いViscoイタリア中銀総裁が、必要であれば中銀預金金利をマイナスに引き下げる準備ができていると述べたことも寄与したとみられるが、Visco総裁は同時に、3月に行動するかは明白ではないと述べるなど、どっちつかずとなっている。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.0	+0.00	+0.00	-0.00	+0.02	+0.01	-0.01	+0.6	-0.2	+0.6	+0.8
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.1	+0.00	+0.01	+0.00	+0.01	+0.02	+0.01	+0.7	+0.6	+0.8	-0.00
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.2	-0.00	-0.00	+0.00	-0.01	-0.01	+0.01	+0.4	+0.6		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.6	-0.05	-0.04	+0.00	-0.05	-0.05	+0.01	+0.6	-1.8	+0.2	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.6	-0.02	-0.01	+0.00	-0.01	+0.00	+0.01	+0.6	-1.8	+0.2	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.4	-0.01	+0.00	+0.01	+0.01	+0.01	+0.00	+0.6	+0.6	+0.2	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

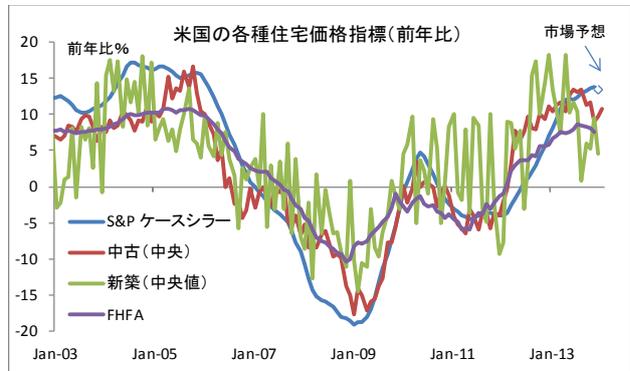
きょうの高慢な偏見：ポンドは息を吹き返すか

本日の指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
南ア4QGDP・前年比	18:30	+1.8%	+2.1%	
英1月BBA住宅ローン承認件数	18:30	46,521件	47,150件	
米12月S&Pケースシラー住宅価格・前年比	23:00	+13.7%	+13.4%	
米2月消費者信頼感指数	0:00	80.7	80.0	カンファレンスボード
Tarullo・FRB理事発言	0:10			中立、投票権あり
ウクライナ、拳国一致内閣・暫定政権樹立予定				

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日の米経済指標もパツとしない予想となっており、ドル/円は102円台ながら101-103円の最近のレンジ相場が続こう。住宅関連指標は全般的にピークアウト感がある中で、本日発表のS&Pケースシラー住宅価格も前月

から伸び率が低下する見込みで、消費者信頼感指数も前月から小幅悪化予想となっている（下図を参照）。消費者信頼感については、既に2月14日にミシガン大消費者信頼感が発表されており、81.2と前月から横ばい、今回のカンファレンスボード分も概ねこれと整合的な予想で、比較的高水準ではあるものの上下に大きく振れる予感はない。新興国市場の米長期債利回りやドル/円への影響力も低下してきている中、レンジを抜けるきっかけとしては来週3月7日の米2月雇用統計発表を待つしかないだろう。



英住宅ローン承認件数は右肩上がりが続いており、今回も増加が予想されているが、足許ポンドは特に対ドルで調整モードとなっていることから、ポンドが再び上昇基調に戻るには市場予想を大きく上回る必要があり、また米経済指標の悪化も同時に起こればポンド/ドルは上昇し易くなるだろう。

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641